

2009・広大マスタース市民講座報告

「世界の美術紀行」

難波 平人

世界中の地域や国に住む人々の生活には、自然、農業、住居、宗教、歴史などのような背景がある。難波会員は、人文地理や文明に属する事象に基盤を置きながら、世界各地の美術を探訪し、会場を笑わせる逸話を挟みつつ、楽しい美術紀行を紹介した。そして、その紀行で入手した楽器、帽子、仮面など多数の「アート」を持参するとともに、自らの印象をスケッチとして凝縮させ、聴講者に披露した。



紹介したい国あるいは地域はたくさんあったそうだが、1回につき2ヶ国、4回で8ヶ国が精一杯だったという。しかし1ヶ国で最大45分。そこへカラープリントの資料やビデオ、スライドを使って、各国の歴史、人文地理、美術館、寺院、宮殿、街並み、主な作者、主な美術作品を盛り込んでいくわけだから、山盛り一杯の大忙しだった。

講座の日程は次のとおり。しかし、各回の要旨を完全にレポートすることは不可能に近い。エントリーした聴講者は34名だった。

第1回 11月10日(火)

トルコ：歴史(ローマ時代以前、ローマ時代、ビサンチン帝国時代、セルジューク朝時代、オスマン帝国時代、共和国時代)。9つの世界遺産。トルコ石やチャイ、イズニック・タイルの話題も。

イタリア：フィレンツェ>ヴェッキオ宮殿(ボッティチェリ「春」)、ウフィツィ美術館(レオナルド・ダ・ヴィンチ「受胎告知」、ティツィアーノ「ウルビーノのヴィーナス」、ウッチェロ「サンローマの戦い」)。ティカン>システィナ礼拝堂(ミケランジェロ「アダムの創造」「最後の審判」)、絵画館(ピナコテーカ)。シチリア、ポンペイも。

第2回 11月17日(火)

フランス：パリ>ルーヴル美術館(「ミロのヴィーナス」、レオナルド・ダ・ヴィンチ「モナ・リザ」、ダヴィッド「ナポレオン1世の戴冠」、アングル「グランド・オダリスク」)、オルセー美術館(ルノワール「ムーラン・ド・ラ・ギャレット」、マネ「笛を吹く少年」、ゴーギャン「ヴァイルマティ」、ゴッホ「自画像」、ドガ「舞台の踊り子」、ミレー「晩鐘」)。ニース>マティス美術館、ピカソ美術館、シャガール美術館など。

マリ：バンディアガラ断崖、トンブクトウの街

第3回 12月1日(火)

インド：インド散策>北西インド(ムンバイ=ボンベイ、アジャンター)、デリー、アグラ。国立博物館の作品群。インドの歴史と人文地理。

イギリス：テート・ギャラリー=テート・ブリテン(ターナー「カレーの棧橋」「吹雪、アルプスを越えるハンニバルとその軍隊」「吹雪」「のろしと青い光」など、ミレー「オフィーリア」)。近代日本画にみるターナーの影響、ラファエル前派がめざしたもの、「オフィーリア」の美と背景。

第4回 12月8日(火)

ペルー：ペルーの歴史と人文地理。ペルー散策>ペルーの遺跡、クスコ、リマ。アンデスの黄金文化。

スペイン：スペイン南部アンダルシアの歴史と人文地理。マドリッド散策>マドリッド市内、マドリッド近郊。マドリッド>プラド美術館(16世紀エル・グレコ「聖霊降臨」「胸に手を置く騎士」、17世紀ベラスケス「ラス・メニーナス」「バッカスの勝利(酔っぱらい)」、18世紀ゴヤ「裸のマハ」「わが子を食うサトゥルノ」、そのほか圧巻のコレクション群について)、ソフィア王妃芸術センター(ピカソ「ゲルニカ」など、ダリ「偉大なる自慰者」など、ミロ「ポートレイトII」など)

この間、日本国内の放浪を経て世界の「文明」に向かった経緯とか、芸術における個性の確立についても論じられた。（太田安英記、写真とも）



